二〇二一年四月一七日

つばくらや淡路瓦のいぶし銀　うつぎ

白玉の椿清楚と言ひつべし　はく子

落椿拾へば昨夜の雨こぼす　うつぎ

引潮の浜に吸ひつく屑若布　なつき

ダンプカー大吊橋にかげろへる　素　秀

雨晴れてきて花の窓明るうす　わかば

吾が面ふいに翳りて昼の蝶　む　べ

沈丁の香に誘はれ古刹訪ふ　愛　正

山桜高鳴る雨の疏水かな　わかば

列乱す園児帽子に花の屑　かかし

校門の守衛の肩に桜蘂　む　べ

花見の子リュックにのぞくテディベア　なつき

甲冑の武士の面差し春の闇　うつぎ

下山せし夫の土産や落し角　む　べ

な滑りそ春落葉積む散歩道　よし子

公園の桜見せんと療法士　うつぎ

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年四月一八日